

ヨーロッパにおけるオープンソースの成熟状況

欧州ではデジタル主権に対する理解が

深まりつつあり、技術的および組織的な課題解決のために世界的な協力が、より重視されるようになった。



OSS のセキュリティに対する信頼は高く、

2023 年には 73%、2024 年には 76% が OSS はクローズドソフトウェアよりも安全であると考えている。



回答者の 74% は、学習と個人的な成長がオープンソースにコントリビューションする主な動機であると述べている。



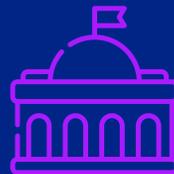
過小評価されているグループのギャップを埋め、よりインクルーシブで多様なオープンソースエコシステムを構築する上で、**メンターシッププログラム**は不可欠。

オープンソースから最も恩恵を受ける**上位 3つの部門**は、IT (37%)、政府 (36%)、高等教育 (30%)。



公共部門と教育部門の組織のうち、オープンソース戦略を持っていると報告しているのはわずか**30%と17%の組織**。

OSPOは、公共部門における組織間のオープンソースコラボレーションを促進するための**重要なメカニズム**。



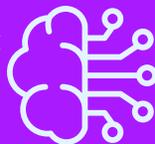
回答者の 82% は、「公的資金、公的コード」の原則に従い、公的資金で開発されたソフトウェアはオープンソースとして公開すべきであるということに**同意**。

オープンソースはますます**重要なデジタルインフラ**として認識されるようになり、専門家は人材とエコシステムへの長期投資を求めている。



調査回答者の 43% は、AI / ML はオープンソースであることにより、最大の恩恵が受けられると考えており、

欧州におけるオープンで透明性の高いAI開発の重要性が高まっていることが浮き彫りになっている。



EU AI Actのオープンソース例外規

は、AI モデル、安全性、オープンデータ アクセスに関するオープンコラボレーションを強化する機会を提供。



欧州のスタートアップ企業の成功により、オープンソース AI イノベーションにおける欧州の人材と将来性が広く知られるようになった。

